



セミはなぜ夏にしか鳴かないの

セミが鳴くのは夏だけではない

日本全国で、セミの鳴き声が聞けるのは、いちばん南にある沖縄まで入れると、3月～10月いっぱいまでと、長い期間になります。北から南まで細長い日本列島は、セミの種類によって、少しずつ、成虫のセミが現れる時期がちがうため、こんなに長い期間、どこかでセミの音が聞けるというわけです。でも、いちばんたくさんの種類のセミが、いっせいに現れるのは、7～8月です。ですから、夏しか鳴かないように、思われるのでしょうか。

セミが鳴くのはメスをよぶため

セミは、土の中ですごす幼虫時代が長く、成虫になると1～2週間しか生きられません。その短い間に、大急ぎでメスとオスが出会って、メスは卵を産み、子孫を残さなければなりません。セミがうるさく鳴いているのは、オスがメスに「ぼくはここにいるよ」と知らせているのです。鳴くのは、オスのセミだけです。

セミは、種類によって鳴きがちがいますが、鳴く時刻もちがいで、ちゃんと同じ種類のセミどうしが出会えるようになっていきます。また、セミの種類によって、好きな木が決まっていることもあり、同じ木の周りに、同じ種類のセミが集まることが多いのです。

卵で子孫を残して死ぬ

オスと交尾したメスのセミは、木の皮の上から産卵管をつきさし、木の皮の下に卵を産みつけ、やがて死んでしまいます。アブラゼミなどは、卵はおよそ1年後にかえって、幼虫は木の下の地面にもぐり、木の根のしるを吸って生活します。5年後の夏、成長した幼虫は地面から出てきて、木の枝などの上で羽化し、セミになります。（監修・中山 周平）

